

# 事務局だより INFORMATION

元気を咲かそう!



# KIMASSI

Vol.107  
March

# KANAZAWA

KANAZAWA TOIYA CENTER QUARTERLY NEWS 2010年3月 金沢問屋センターニュース  
URL <http://www.kimassi.or.jp/>

研修会報告  
幹部社員研修会／経営者研修会／労務管理講習会  
第6期「金沢商人塾」例会報告  
金沢商人塾を受講して  
バトンエッセー  
わが社をPR  
うちのキラリンさん  
事務局だより



12月

- 3日 理事会  
1. 総務委員会より  
(1) 新年祭について  
(2) 新年互礼会について  
(3) 生活習慣病予防健診の実施について  
(4) auの携帯電話基地局設置依頼について  
2. 組合運営委員会より  
(1) 会館のパンフレットの作成について  
(2) 会館の修繕について  
3. 厚生委員会より  
(1) 女性社員研修会について  
(2) 各研修会の実施について  
4. 事業戦略委員会より  
(1) 交番跡地の活用について  
(2) 会館大ホールの屋上緑化について  
(3) 広報誌第106号の発行について  
5. 開発プロジェクトチームより  
(1) 第11共同駐車場の有効活用について  
(2) 不動産の購入について  
(3) (協)青森総合卸センターの視察について  
6. 青年部会より  
(1) オープンセミナーについて

- (2) 九州視察について  
7. 事務局より  
(1) 「金沢商人塾」第4回例会の結果と第5回例会について  
(2) 新たな融資制度について

1月

- 4日 新年互礼会  
●21日 理事会  
1. 総務委員会より  
(1) 景況調査の集計結果について  
(2) 新入社員歓迎式について  
(3) 中西産業(株)、中西セメント商事(株)跡地の購入について  
2. 厚生委員会より  
(1) 研修事業の開催について  
(2) 新入社員行事について  
3. 事業戦略委員会より  
(1) 第11共同駐車場内にあった看板の移設について  
4. 正副理事長会より  
(1) (株)アルプへの土地売却について  
(2) 組合加入のための出資金額変更について

- (3) 入会金について  
(4) 出資配当について  
(5) 組合員のメリットについて  
(6) (協)青森総合卸センターへの視察研修の日程変更について  
(7) 企業誘致のための物件情報公開について  
(8) 富士タクシーの待機場所変更について  
(9) 総会の日程  
5. 事務局より  
(1) 「金沢商人塾」第5回例会の結果と第6回例会について  
(2) (有)ケーアンドケーの清算について

2月

- 7日 幹部社員研修会  
●18日 新入社員フォローアップ研修(3回目)  
●22日 生活習慣病予防健診  
【一般健診】11社 34名  
●23日 生活習慣病予防健診  
【簡易ドック】2社 7名 【日帰り人間ドック】3社 5名  
●25日 経営者研修会

## 新コーナー

### わが社をPRO

#### 森佐(株)が日経MJに

販路の一つとしてネットの役割が大きくなっている昨今、当組合でも多くの企業がネット販売に取り組み成果を上げています。そのなかで森佐(株)のネットショップ「半纏本舗」が日経MJに取り上げられました。

#### 半纏本舗 お祭り用品

祭に華やかさを添える色鮮やかなはんてんをネットで注文できる店がある。「半纏(はんてん)本舗」は森佐(金沢市)が運営する染加工品のネットショップ。お祭り着るオリジナルのはんてんのほか、のほりやたすきなども別注で受け付けている。  
2色のはんてんの場合、10枚注文で1枚あたりの標準価格は1万8500円。生地やデザインをメールなどで打ち合わせしてから正式発注になる。一口に綿布といっても織り方で様々な種類があり、自分たちだけのこだわりのはん

小粋に特注はんてん

【会社概要】  
設立 1917年4月  
代表 森昭夫社長(54)  
取扱品目 はんてん、のほりなどの染加工品  
従業員数 6人  
URL <http://morisa.co.jp/>

てんが作れる。正式発注から納品まではだいたい1カ月程度かかるという。同社は1917年(大正6年)に創業、繊維問屋としてはんてんを中心に染加工品を扱っている。この主力製品をネットでも販売しようと2007年にネットショップを始めた。全国の祭保存会などから受注を受けているという。

#### にぎわう 専門通販



日経MJ(2010年3月5日付)

## うちの

キラリンさん

問屋町にお勤めの元気な社員の方をご紹介します



### さすがホクツー!と言われたい

北陸通信工業株式会社 中島 龍一郎さん

前職は技術畑でしたが、幅広い仕事でスキルアップをしたくて約4年前に入社しました。営業と考えると、現場を知らなければお客様に見積の説明もできません。現場の仕事を目で確かめて、根拠のある数字で信頼関係を築くことを心がけています。

営業先は官公庁や公共施設。入札で悲喜交々の経験はしましたが、今後は企業の社会貢献度まで評価される方式に移行しつつあります。その点わが社は災害時のボランティア活動等にも積極的、私自身もお客様から「さすがやな!」と言われる仕事を目指して成長していきたいと思えます。

学生の頃から続けているストリートダンスがあるから仕事も頑張れる。奥さんには怒られますけど。

## 編集後記

当号が発行される頃にはバンクーバー五輪の話題も薄らいでいるころだと思うが、今はまさに盛り上がっている。特にフィギュアスケートの浅田真央とキム・ヨナの直接対決。ともに90年9月生まれで身長も全く同じ。日本の誰もが浅田真央が金メダルを取ると信じていた。華麗なジャンプの真央と、妖艶な表現力のヨナ。タイプはまるで違うけれど、お互いに「百年に一度の選手」。今までの直接対決は計11回で、真央の5勝6敗とほぼ互角だが、近年では3連敗している。

で、結果はというと残念ながら、ヨナが金、真央が銀だった。同じ時代に生まれたのが不幸なのか...同じ時代に生まれたからこそフィギュア界の技術が伸び、追従する選手たちの向上に役立つのか。

もちろん後者であろう。「不景気だからしかたない」とか「日本の政治が悪い」とかネガティブに考えないでライバルたちと切磋琢磨し、日々向上心を忘れず努力したいものである。(T.K)

# 研修会報告

## 幹部社員研修

### 中堅・中小企業勝ち残りのための与信管理

講師 三井住友海上火災保険(株) 経営サポーターセンターアドバイザー 木次谷 学氏

厳しい経済状況が続くなか、取引先に倒産などの事態が生じることを想定して与信管理を行っていく必要がある。その重要性、基礎知識や具体的方法について専門家に講演をいただき、23社51名が熱心に話を聞いた。講演におけるポイントとは次のとおり。



◆ポイント1: データから見ると、この1年間で大企業の倒産が一巡したと思われる。最近では中小企業、歴史の古い企業の倒産が増えている。

組織力・人間力アップの一助として、協同組合金沢周屋センターが開催している研修会の一部をご紹介します。

金の理由をその日のうちに確認しなければならぬ。しっかりと与信を管理することによって、他の債権者よりも先に回収できる可能性も増える。

◆ポイント3: 与信管理の準備としてまず「社内基準」を作り、営業マンを含めた社員全員がそれを共有化する必要がある。その方法について具体的な説明があった。

◆ポイント4: 得意先をランク付けした後、それを表にして大枠で分類する。

◆ポイント5: 少額債権の回収の場合、弁護士ではなく認定を受けた司法書士を利用した裁判所への申立てもできる。

◆ポイント6: 不動産登記簿、商業登記簿の履歴のチェック、整理回収機構など金融機関以外の担保設定、共同担保目録の記載がないかなど。

◆ポイント7: 与信管理は定期的にチェックを続けていくことが大切であり、変化が分かるように管理していくことが重要だ。

### 第5回 12月19日(土)

満足を越えた感動へ  
〜ホスピタリティ経営の実践〜  
小田 禎彦氏



(株)加賀屋 会長の小田氏に「感動」の経営で30年間で本一であり続けることのお話などをお話いただいた。

## 第6期「金沢商人塾」例会報告

### 第6回 2月20日(土)

徳川家康の生き残り戦略  
小和田 哲男氏



戦国時代史研究の第一人者であり、NHKテレビ「そのとき歴史が動いた」にも出演された静岡岡大学名誉教授の小和田氏を招いた。

徳川家康が戦国時代を生き残り、天下を治めることができたその理由として①失敗の経験を生かす ②泰然自若とした態度 ③歴史に学ぶ ④家臣を大事にするの4つを挙げた。

家康は三方原の戦いで武田信玄に大敗した惨めな自分の姿を絵師に描かせ、心に緩みを感じられる時などに見返したという。また両腕の家老の一人を豊臣秀吉にヘッドハンティングされた時、滅ぼされた大名の家臣を取り入れるという従来では考えられなかった策をとったことなど、具体的な史実をもとに分かりやすく解説をいただいた。

## 塾生に聞きました 金沢商人塾を 受講して

第6期商人塾に参加された塾生の感想を一部ご紹介します。現在、第7期の準備を進めておりますので、ぜひご参加ください。

- 小前田運輸(株) 小前田 孝さん  
今後もこの塾を必ず続けてください。私は、この塾に人を出せるよう会社を大きくしていきます!
- (株)ハクイ村田製作所 嶋田 隆志さん  
製造業の経営者として大変参考になりました。グループワークの時間をもう少し長くしていただくことを希望します。
- 富木医療器(株) 浅井 一倫さん  
6回をとおり非常に参考になりました。学んだことを少しでも役立てていけるよう努めていきます。ありがとうございます。
- 永野印刷(株) 小橋 浩実さん  
今までいろいろな講習に参加しましたが、講師の先生の熱意が感じられることが多かったように思います。各分野の女性の講師も検討されてはいかがでしょうか。
- 個人事業 竹田 将文さん  
講師・内容など良く検討された中身の濃い研修で、また参加したいと思います。1回ずつの成長があり、毎年受講のたびに成長できる内容だと思います。
- (株)辻酒販 辻 大輔さん  
各回、内容が充実していて楽しかった。講師の方と話ができる時間がもっと欲しかったです。

## 経営者研修会

### ちよっとの工夫で 会社は元気になる!

「日本一明るい経済新聞取材現場から」講師(有)産業情報化新聞社 代表取締役 竹原 信夫氏



「厳しい時代に聞いて明るい気持ちになれる話」という意見から、日本一明るい経済新聞社編集長として活躍の竹原氏を講師にお招きした。18社27名が集まり話に耳を傾けた。

まず一般的に日本の新聞の一面は悪い話ばかりで、良い話は社会面に小さく1回しか掲載されない傾向にあり、それはメディアが自虐的であることが原因であると述べた。もともと新聞社に勤務されていた

## 労務管理講習会

### 笑顔がつくる 積極人生・幸福人生

顔学インストラクター 前田 紘一氏



12社15名が参加。第一部で「高齢者の戦力化と支援策について」(社石川県雇用支援協会の高橋事業部長)の講演を聞いた後、第二部で顔学インストラクターの前田紘一氏に講演をもらった。前田氏は、顔や表情がもたらすイメージや内面性について研究され、個性美学講習会の開催など、美容業界ほか多方面で活躍されている。

竹原氏が、それではいけないと始めたのが「日本一明るい経済新聞」である。関西の中小企業を年間400社ほど取材し、スポーツ新聞のような装丁で元気な企業の紹介などを行い、現在、毎月3万部を発行している。実際に取材していくなかで感じる元気な社長の共通点として「あゝ明るい」「意志が強い」「運が良い」と思い込む。え縁を大切にしている。おゝ大きな夢を持っている。5つを挙げられた。また番外編として①会社の入口に置かれている靴・スリッパが綺麗にそろっている。②トイレがピカピカ。③社長の朝が早い。④社長の夫婦仲が良いことを挙げた。社長が以前より30分早く出社することが社員のエネルギーとなり、下がった売上を回復させた話など、多くの実例を交えながら解説いただいた。

自分の顔・声は自分には分からない。隣にいて一番自分を分かっている夫や妻がその人のことを言ってあげることも大切であり、また自分のことは自分には分からないという前提でものを考えようと良いという顔という字の偏は「人」、旁は「ペー」を意味し、顔はその人そのものを表す。顔の眉より上に「知性」、目と鼻の間に「感情」、鼻より下に「意志・行動力」が現れるが、良い笑顔をつくるポイントには顎を引き、口角を少し上げ、左右対称で笑うことだと説明された。さらに、アメリカの小学校の教科書に最初に出てくる言葉の一つ「I'm glad to help you」を「喜んで(私がします)」と訳したうえで、「喜んで」の言葉を自分に言い聞かせると効果があると笑顔のコツなどを話され、人は笑顔で生きるから幸せになれると解説された。

## バタムンヘンサー vol.8!

### 趣味となった木目込み人形との出会い



同信産業株式会社 金沢営業所 所長 東 政宏

皆さん、木目込み人形と聞いてもピンと来ない人もいるかと思えます。少し、木目込み人形の歴史について文献を調べた話をさせていただきます。今からおよそ260年前の江戸元年(1736-1741)に、京都の上賀茂神社の神官である堀川家に仕える高橋忠重という人が作った小ぶりの人形が、「木目込み人形」の始まりとされています。

その人形は鴨川のほとりの柳を素材に木彫りを施し、そこに溝を掘って神官の衣装の端切れをきめこんだ物でした。当初は加茂の地で作られたため「加茂人形」と言われており、また胴体の木地に筋彫りを入れて生地をきめこんで作るので「木目込み人形」とも呼ばれていました。人形の本体は桐の粉を固めて作られた桐壺(とうす)で、頭は桐と別に作り完成した胴体に差込んで人形に仕上げます。

私と木目込み人形との出会いは12年前、たまたま母が作っていた千支の木目込みを見て、「これは面白そうだな」と見よう見まねで作ったのが始まりでした。小さい頃からプラモデルを作るのは好きでしたが、基本も何も勉強せず自己流でただ布

を木目込んでいたためいい物には仕上がらず、自分でも納得がいけないまま作っていたように思います。それから6年後、どうせ作るなら初めから勉強して教えることができるまでになりたいたいと、近くに教えてもらえる所がないかインターネットで調べたところ、伝統工芸に指定されている有名な所があり、森喜朗さん、森山真弓さんが顧問をしておられる東京木目込人形師範会を選びました。早速問い合わせたところ先生が近くにおられ、すぐに連絡して見学をさせてもらい入会させていただきました。初めて先生の所に伺った時は、「若いのに木目込み人形を趣味にするなんて珍しいですね」と言われました。習いに来られている人もお年を召した人たちがほとんどで、先生も私が習いにいった時はすでに70歳を超えておられました。そこでまずは教えることができるまでのコースに入会し、普通科、高等科、師範科を卒業しました。師範科を卒業したので教えることはできますが、その上の講師科の勉強に現在トライしています。

最近、千支の注文も個人で定期的にいただき、新築のお祝い、還暦のお祝いの記念に木目込み人形を作った販売したり、贈ったりして趣味を生かしております。受け取られた人の笑顔を楽しみに、これからもこの趣味を生かしていきたいと思っています。